

全道文芸研究大会コンクールに出品する作品について

北海道高文連文芸専門部

昨今、科学論文の不正に始まり、著作物のコピーアンドペースト、画像の不正処理など論文やレポート、文学作品の盗作に対する世間の眼が厳しくなっています。実際に東大をはじめ多くの大学で、学生に課したレポート等に不正が認められたら場合厳しい処分を下す（その年次の履修科目すべての単位無効など）ことが、普通になってきています。中には、大学の公式ホームページ上に処分した学生の学籍番号を掲載しているところもあります。

今コンクールの応募規定の最初にあるように、「未発表作品」であることが大前提となります。過去に盗作や二重投稿と思しき作品が出品されたことが複数回ありました。その都度、当該生徒の所属する顧問の先生や校長先生、作品を盗用された人や審査員の先生方と話し合いを持ちながら厳正に対処してきました。その結果、盗作した本人だけではなく、そこに関わる多くの人が悲しい気持ちになりました。

こんなことを繰り返していると、皆さんの書いた作品を審査する段階でまず「盗作じゃないか」「二重投稿ではないか」と疑ってかかるところからはじめなくてはならなくなります。そんなフィルターをかけられての審査って悲しいことだとは思いませんか。そこで、応募規定に下記のような内容を付記することにしました。

- ・ 他のコンクールやコンテストに応募している作品は不可とする。（文芸部誌を除く）
- ・ 他人の作品の一部を盗用したり、一部だけ改変して自分の作品にしたりしてはいけません。
- ・ 文芸専門部各支部や学校内で行っている研修会・歌会・句会に出した作品で他者により添削され改変されていないものは可とする。
- ・ 文芸部誌、生徒会誌、学内新聞等校内で発行された刊行物に掲載された作品は可とする。
- ・ 過去に出品した自作の一部を変えただけの類似・類想と思しき作品も不可とする。特に俳句・短歌は注意すること。

<今年度周知徹底期間とし、来年度以降応募規定として徹底すること>

インターネットやSNSでの作品交流が盛んに行われている昨今、新たな問題が出てきています。それにより未発表作品・二重投稿の定義が問われるようになりました。そこで下記の項目を来年度以降附記することにします。

今年度からの附記について検討しましたが、ネット上での活動を盛んにしている学校があることに配慮しました。

- ・ 不特定多数の人が見ることができるネットやSNS上に掲載した作品は不可とする。ただし、一定のグループ内でしか閲覧できないSNS、HP上での発表等は可とする。